



三鷹2022 この一年

プレミアム率30%!
地域経済や家計を応援

今年も残すところあと少し。新しい取り組みや
楽しい話題など、三鷹市の一年を振り返ります。

すべての子どもと
子育て世帯を支援



「三鷹むらさき商品券」の購入申し込み
を開始(9月30日)

ウクライナへの
支援



ウクライナの民族楽器・バンドウ
ラ奏者のカテリーナさんによるチャ
リティーコンサート(5月13日)

市民の皆さんの
作品発表の場にも



桜井浜江記念市民ギャラリーがオープン
(4月19日)



三鷹市独自の子どもの医療費助成
がスタート(10月1日)

楽しく学べる、
役に立つ!



NPO組織「Mitakaみんなの防災」の設立
記念イベントとして「みたか防災マルシェ
2022」を開催(9月10・11日)



「星空の街・あおぞらの街」全国大会を三鷹市で開催。三鷹ネットワーク
大学が環境大臣賞を受賞(10月22・23日)

都内自治体で
初開催!



ご遺族の負担を軽減する
ワンストップサービス



「三鷹市おくやみ窓口」を市民課
(市役所1階)に開設(10月3日)

戻りつつある日常—3年ぶりのイベント

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていたイベン
トも、感染対策を徹底しながら徐々に復活しつつあります。



みたか商工まつり(7月)



三鷹市農業祭(11月)



三鷹国際交流フェスティバル(9月)



三鷹市民駅伝大会(11月)

最先端の技術を
活用した
交通サービス



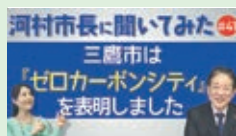
井の頭地区で小型EVバス(井のバス)、大沢
地区でAIデマンド交通(大沢めぐり号・大沢
ほたる号)の実証運行がスタート(10月24日)

蔵書を片手に
太宰珈琲を
どうぞ



太宰治文学サロンがリニューアルオープン
(3月1日)

YouTubeで
配信中
「河村市長に
聞いてみた!」



今年も新型コロナウイルスの蔓延と格闘した大変な一年でした。その中で本心に驚かされたのは、市民の皆さんの「底力」です。このコラムの勇ましいタイトルも、おなじギャグではなく、私の正直な気持ちです。

地域活動や子どもたちの様子が心配で、この一年、できる限りイベントに顔を出してしまいました。しかし、そんな心配の必要が全くないほど、皆さんの姿は頼もしいものでした。例えば、ある小学校の運動会では、人数制限で会場に入れない家族のために、保護者の皆さんが地域放送局さんからのライブ配信をしていました。また、三鷹国際交流フェスティバルでは、エリア限定・入れ替え制の青空飲食にご協力いただきましたが、大勢の皆さんがルールを守り、イベントを楽しんでいた姿が印象に残っています。

今や、さまざまな事業でリアルとオンラインのハイブリッド開催は当たり前になり、スマートフォンのアプリを活用したバーチャルの市民駅伝まで開催されています。コロナ禍にあって、これまでにないさまざまな発見も生まれています。が、何よりすごいのは、工夫しながら今できることに挑戦し、それを楽しむ市民の皆さんの姿です。来年はそうした萌芽がさらにたくさん出てくる気がします。

新しい年の訪れに胸が高鳴ります。

あなたはミタカ!
三鷹市民の「底力」を



三鷹市長
河村 孝